

令和7年(2025)3月22日(土)

中央区 地域リーダー研修会(千葉市社会福祉協議会 中央地区事務所)

千葉開府900年に向けて、千葉氏を知ろう! ~千葉氏入門Q&A~

千葉市立郷土博物館 総括主任研究員 外山 信司

はじめに

- ・千葉氏と「千葉」という地名、どちらが先か?

『万葉集』巻20 千葉から防人として九州に赴いた若者が、残してきた恋人を思っ
て詠んだ歌 千葉の野の 児手柏の 含まれど あやにかなしみ おきてたかきぬ

右の一首は、千葉郡の大田部足人

【意味】千葉の野の児手柏(このてがしわ)のように若くてあどけないけれど、なんともかわいくて手もふれずにやってきたことだ。右の一首は、千葉郡の大田部足人(おおたべのたりひと)の歌

…「千葉」という地名が先。千葉を領地としたから「千葉氏」

※以下【Q〇】のリンク先から戻るには、お使いのブラウザの「←」のような「戻り」をクリックしてください。

1 千葉氏とは? →【Q1】

※氏(うじ)は「平」、名字(みょうじ、苗字)は「千葉」

- ①氏=父系の血縁関係によって結ばれた血縁集団、同族集団 …広い

桓武天皇の流れを汲む=「桓武平氏」

- ②名字=家の名(ファミリー・ネーム)。住む土地や領地を名乗る …狭い

大治元年(1126)常重が大椎(千葉市緑区)から千葉へ本拠を移した

→「千葉」を名字として名乗る。名字の地としての下総国千葉郡

例) 平(の)常胤=千葉常胤

平(の)時政=北条時政

源(の)晴信=武田晴信(信玄)

源(の)家康=徳川家康

藤原(の)実美=三条実美

藤原(の)実篤=武者小路実篤

*ある人物を氏で呼ぶ時は「の」を入れる。名字で呼ぶ時は入れない。しかし、中世後期頃から「氏」と「名字」が混同され、同一のものと見なされていった。

2 千葉氏の画期

平安時代後期から戦国時代末期(1590)まで約500年続いた千葉氏の歴史を振り返ると、いくつもの節目があることに気付く

※千葉氏は「平氏」なのになぜ源頼朝を助けて鎌倉幕府の樹立に貢献したのか?

- (1) 長元元~4年(1028~31)平忠常の乱…忠常は源頼信に降伏し、子や家臣は罪に問われない→【Q6】 …源氏を「武家の棟梁」と仰ぎ、臣従する
- (2) 大治元年(1126)千葉常重が大椎(千葉市緑区)から千葉へ本拠を移したという →【Q5】
- (3) 保元元年(1156)保元の乱、千葉常胤・上総広常ら源義朝に属して参戦
- (4) 平治元年(1159)平治の乱で源義朝敗死、常胤は「大謀反人前下野守義朝朝臣年来の郎従等、凡そ王土に在るべからざる者なり」(永暦2年(1161)「櫟木文書(いちきもんじょ)」『千葉県の歴史 資料編 古代』)とされ、窮地に陥る

- (5) 治承4年(1180)源頼朝、平家打倒の兵を挙げるが、石橋山の合戦で敗れ、安房に逃れる。常胤(63歳)、頼朝に応じる⇒【Q6】
- ※中世の武士にとって主君に自分の領地を保護してもらい、新たな領地を給与されること(御恩)が何よりも重要であり、その見返りとして命を懸けて戦う(奉公)
=封建社会は「御恩」と「奉公」に基づく契約関係によって成り立つ
例)大庭景親「恩こそ主よ」(『源平盛衰記』)
- (6) 元暦2年(1185)壇ノ浦で平家滅亡、常胤は九州に所領を得る⇒【Q9】
- (7) 文治5年(1189)常胤は東海道大將軍として奥州藤原氏を攻め、東北各地に所領を得る⇒【Q9】【Q20】
…鎌倉幕府の樹立に大きく貢献し、千葉氏は屈指の御家人となる⇒【Q8】
- (8) 宝治元年(1247)宝治合戦、北条氏が三浦氏を滅ぼす。上総千葉氏が三浦方として滅亡⇒【Q11】
- (9) 文永11年(1274)文永の役、千葉頼胤が博多でモンゴル軍と戦い、傷を受けて没するが、子の宗胤は九州に留まって「肥前千葉氏」の祖となる⇒【Q12】【Q22】
- (10) 建武3年(1336)南北朝の乱の中で、肥前千葉氏は北朝方、下総千葉氏は南朝方となり一族が対立するが、下総千葉氏の貞胤は北朝方に降伏し、足利尊氏に仕え下総・伊賀・遠江の守護となる⇒【Q13】
- (11) 康正元年(1455)享徳の乱で、千葉宗家が滅亡する。
・鎌倉公方足利氏、関東管領上杉氏の対立抗争が爆発、関東は戦国時代へ
足利氏=馬加氏・原氏 X 円城寺氏・白井氏・千葉氏(宗家)=上杉氏
馬加氏の系統が千葉氏を継承し(「馬加千葉氏」)、平山(千葉市緑区)を経て本佐倉城(酒々井町・佐倉市)に本拠を移す。宗家の系統は武蔵に逃れ「武蔵千葉氏」となる⇒【Q14】【Q16】
- ※原氏の本拠は生実城 …花輪町を含む生実周辺の重要性が高まる
- (12) 永正15年(1518)足利義明、小弓城に入り「小弓公方」と称される⇒【Q18】
「小弓公方」足利義明=里見・上総武田・臼井氏 X 原・千葉・北条氏=「古河公方」足利高基
- (13) 天文7年(1538)第一次国府台合戦で足利義明は小田原の北条氏綱に敗死する
…千葉氏は小田原北条氏に接近する
- (14) 永禄7年(1564)第二次国府台合戦で里見義弘が北条氏康に敗れる
- (15) 永禄9年(1566)上杉謙信が千葉氏の重臣原氏の臼井城を攻めるが、敗退する
- (16) 天正13年(1585)千葉邦胤が家臣に殺害される
- (17) 天正17年(1589)北条氏政の子の直重が千葉氏を継ごうとする⇒【Q19】
- (18) 天正18年(1590)豊臣秀吉が小田原城を攻め、北条氏が滅ぶ。千葉氏・原氏・酒井氏をはじめ房総の諸氏も滅亡する(安房里見氏は存続)

3 千葉氏の名前 ※千葉氏の名前は「胤」ばかりで紛らわしい?

元服 …子供⇒大人 ※名前を変える

幼名(ようみょう)・童名(わらわな)⇒実名(じつみょう)=諱(いみな)

例) 亀若丸⇒頼胤 民部卿丸⇒親胤 梵天丸⇒政宗

※千葉氏当主の実名(諱)の決め方 …2つのパターン

(1) 籤で決める

※千葉氏の通字(とおりにじ・つうじ)は「胤」なので、嫡子はそれ以外の字を三つの候補から籤(くじ)で選ぶ

中世人にとっての籤の意味=神の意志を表す

例) 「くじ引將軍」足利義教 …「万人恐怖」と呼ばれた強権政治を行う

・三つの候補から選ぶ …千葉氏以外の例

① 秋田藩佐竹家 氏神の八幡宮の神前で「御名乗（実名）」の候補三つから元服した本人が選ぶ。候補は、佐竹氏の通字「義」+嘉字を組み合わせる。撰者は祈祷所の宝鏡院が務めた。

②前橋・桐生地域 名前の候補三つを神棚に供え、幼児に選ばせる（「神の名付け」）

※戦国期千葉氏の嫡子が千葉妙見宮で元服することの政治的意味

＝血統の上では庶流であった戦国期の千葉氏が、**妙見の神威によって、両総平氏の族長である千葉氏の継承者で、下総（東上総を含む）の支配者としての正当性を示す役割**

(2) 将軍などの権力者から一字をもらう

「一字拝領」、「偏諱（へんき）を受ける」

例) 貞胤←北条貞時 氏胤←足利尊氏 満胤←足利義満
兼胤←足利満兼（鎌倉公方）

おわりに

(1) 千葉氏が去った後の千葉は衰微したのか

享徳の乱で千葉城が落城し（1455）、千葉氏が本佐倉城（酒々井町・佐倉市）に本拠を移した後、千葉は「鄙びた海辺の寒村」になってしまい、明治に県庁が置かれてから再び都市になったというストーリー …誤り

・戦国時代、江戸時代にも湊町・門前町として賑わっていた千葉

ア 江戸湾（現・東京湾）の湊、寒川・登戸の賑わい

イ 北斗山尊光院金剛授寺から妙見寺、さらに千葉神社となる

妙見は千葉氏の氏神・軍神（いくさがみ）から町の人々の神へ

➡その上に近代・現代の発展がある＝「**千葉開府 900 年**」の意義

…千葉氏の顕彰だけでなく

(2) 千葉氏はなぜ千葉を本拠地に選んだのか

ア 房総各地からの街道が集まる …房総往還 [内房から]、東金街道・土気往還（大網街道） [外房から]、千葉街道 [東葛・江戸から]、佐倉街道 [印旛・香取から]

イ 江戸湾の水上交通で、鎌倉・江戸、さらに全国へ

※水陸交通の結節点、海と陸を結ぶ交通の要衝としてひととモノが行き交うところ千葉

【主な参考文献】

『千葉氏入門 Q&A』千葉市立郷土博物館、2019

大間知篤「成年式」（『日本民俗学大系 4 社会と民俗Ⅱ』平凡社、1959）

大藤修『日本人の姓・苗字・名前 人命に刻まれた歴史』歴史文化ライブラリー353 吉川弘文館、2012

佐藤博信「戦国期東国諸氏の元服時期について」（『戦国遺文 月報 1 房総編 第一巻』東京堂出版、2010）

築瀬裕一他『千葉市高品城跡Ⅰ』千葉市文化財調査協会、1997

『千葉市の戦国時代城館跡—千葉市史編纂 40 周年』千葉市立郷土博物館、2009

外山信司「下総高品城と陸上交通」（『千葉城郭研究』4号、1996）

「戦国期千葉氏の元服」（『中世東国の政治構造 中世東国論上』岩田書院、2007）

「中世房総の霜月祭」（『地域史の再検討』村田一男先生喜寿記念論集編集委員会、2017）